

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	社会体験活動を通じた青少年健全育成のための新たな仕組みづくり						掲載ページ		
							102		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		1,353	千円	1,750	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 青少年が地域において日常的・継続的に社会体験活動を行うことができる環境づくりをはじめ、放課後児童クラブの運営や地域の青少年活動等をサポートすることができる青年リーダーの養成などの新たな仕組みづくりにより、より多くの青少年に社会体験活動の機会を与えることで、健全育成を図ります。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	青少年が取り組める体験活動の情報を、パンフレットやウェブサイト等で効果的に発信します。子どもたちが地域においてさまざまな体験活動を行うためのモデルとなるクラブを実施します。青少年育成団体等に所属する青年リーダーの育成やネットワークづくりを行います。青少年育成団体相互の連携や情報共有、共同事業実施のための連絡会議を実施します。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
		青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数 青少年ボランティアステーションにおけるコーディネートにより、ボランティア活動に取り組んだ小学生・中学生・高校生等の延べ人数を指標として掲げました。 （最終目標と最終年度）3,200人（平成26年度）	6,342人	3,200人	5,279人 165.0%	大変順調
	青少年の社会体験活動の充実 青少年への体験活動情報の効果的な提供や、地域においてさまざまな体験活動に取り組むことができるモデルクラブの設置、青少年育成活動をリードする青年リーダーの育成などにより、青少年の社会体験活動の充実を図ります。 （最終目標と最終年度）	-	社会体験活動の機会や場の提供	社会体験活動の機会や場の提供	順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	青少年ボランティアステーションにおける、ボランティア体験活動者数は目標を大きく上回っており、大変順調としました。 青少年にさまざまな体験活動の機会や場を提供するための情報発信の強化や、子ども地域体験活動クラブの実施、青少年育成シニアリーダー会議”ぼんて”などの青年リーダーの養成等、青少年の体験活動の推進に向けた新たな仕組みづくりは、青少年の体験活動不足が問題視される中、有効な取り組みです。
	「経済性」「効率性」の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	青少年育成団体やNPO団体等との協働・連携により、経済的・効率的に事業を実施しています。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

今後も、青少年育成団体やNPO団体等とのより一層の協働・連携により、青少年の健全育成活動を担う青年リーダーの育成をはじめ、青少年育成団体や各種事業の社会的認知を高めるため青少年体験活動活性化事業に取り組み、青少年の体験活動の有益性の啓発を強めていきます。  
なお、本事業は「青少年施設ボランティア養成事業」等と統合し、「青少年体験活動活性化事業」として一体的に進めます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	青少年の家の整備・充実						掲載ページ		
							102		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		13,569	千円	19,104	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	青少年の家は、施設周辺の豊かな自然の中で、野外活動や集団生活などの体験を通して、規律、協同、友愛、奉仕の精神を学び、心身ともにたくましい青少年の育成を目的とした社会教育施設です。近年の少子化などの社会の変化や青少年の様々な体験不足が言われるなか、市民の新たなニーズや施設の老朽化に対応するため、青少年の家の整備、充実を推進します。		活動実績	施設環境整備事業として、かぐめよし少年自然の家(体育館)の漏水防止工事等を行いました。		
活動計画	青少年の家の継続的な利用に向け、施設の安全性の確保や利用者の快適性の向上のため、計画的な補修工事等を実施します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	青少年の家の利用者数		200,110 人	利用者数の増	195,775 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	青少年の体験活動の場として青少年の家は有効であることから、利用者数を指標として掲げました。  （最終目標と最終年度）						
	計画的補修工事等の実施					順調	順調
整備工事等を計画的に実施するなど、施設の利便性の向上を図るとともに、円滑な施設運用を図ります。  （最終目標と最終年度）							
					やや遅れ		
					遅れ		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	青少年の家については、市内中学校1年生全員を対象とする「ふれあい宿舎」などの学校利用を含め、一般利用もあわせ、多くの利用がありました。利用者数は若干減少しましたが、各施設において機能整備を進めることにより、施設での事業も円滑に実施されており、利用者の評価も良好であることから順調としました。施設設置後、かなりの期間を経過しており、建て替えなどを検討する時期にきていますが、新築などには財政的にきわめて困難な状況のため、適切な手法による計画的な機能整備を行うことで、長寿命化を図り、活用していくこととします。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	必要かつ適切な投資により、機能整備を行い、ある程度の期間、確実に施設を運用できる見込みを確保した上で指定管理制度を導入しており、管理運営費用の削減につながっています。指定管理へ移行した施設においても、施設の根幹部分については、施設設置者である本市の責任が免れないため、今後の利用にあたっての維持・快適性の向上には、引き続き市の関与が必要であり、適切な発注による計画的な機能整備を進めていきます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
<p>ひきつづき、学校受け入れ事業のほか、主催事業などを通じて、青少年の健全育成のため施設を利用していくこととし、その運営に支障をきたさないよう計画的な補修等を行っていきます。</p> <p>なお、行財政改革の取組みのなかで、公共施設のマネジメントの視点に立ち、平成27年度には青少年施設全体の分野別計画を作成することとしており、そのあり方について検討を進めます。</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	児童文化科学館の整備・充実						掲載ページ		
							102		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		0	千円	5,400	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	児童文化科学館では、科学教育の振興、児童文化の向上を図るため、プラネタリウム、展示物、科学教室などの体験を通じた科学事業、演劇会などの文化事業を開催しています。また、展示物やプラネタリウム機器等についても整備を行います。		活動実績	施設利用者数が対前年比で0.87%減とわずかではありますが、減少しましたので、やや遅れと判断しました。			
活動計画	施設のあり方について検討を行っており、展示物やプラネタリウム機器等の整備についても併せて検討します。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	利用者数		99,228 人	利用者数の増	98,364 人	%	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「天文学習」「科学教育」の実施が児童文化の向上及び科学教育の振興につながると考え、利用者数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）							
	児童文化科学館のあり方の検討		-	-	-	-	順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ
行財政改革の取組みのなかで、公共施設のマネジメントの視点に立ち、青少年施設のあり方を検討することとしています。児童文化科学館については、耐震診断結果（H22）もふまえ、施設のあり方の検討を進めます。 （最終目標と最終年度）								

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	児童文化科学館のあり方については、耐震診断の結果もふまえ、検討を進めています。展示物や科学教室などの取組みにより、利用者増を目指してきましたが、昨年をわずかながら下回った為、やや遅れとしました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	施設のあり方については「経済性」「効率性」を含め検討を行っています。他都市の状況等も踏まえ、コストや立地条件等を十分に検討する必要があります。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
<p>プラネタリウムでの番組のデジタル化に対応するため、簡易デジタル投影機を導入する予定です。今までの静止画によるスライド式番組からデジタル式番組に変わること、動画による躍動感ある番組を提供できるようになります。</p> <p>なお、行財政改革の取組みのなかで、公共施設のマネジメントの視点に立ち、平成27年度に青少年施設全体の分野別計画を作成することとしていますが、児童文化科学館については、市内唯一の天文科学施設として、館のあり方を幅広く検討していきます。</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	児童館の事業の充実						掲載ページ		
							102		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		589,752	千円	660,954	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	児童の健全育成を促進する地域の拠点施設である児童館は、現在、小学生の利用が中心となっていますが、未就学児を持つ保護者からのニーズも高まっています。そこで、子育て支援の一環として、小学生の利用が少ない平日の午前中などに、未就学児の親子向けの講座や教室を実施し、充実を図ります。また、中高生などの居場所となるよう、行事プログラムの開発等を行います。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	子育て家庭を支援するための事業の充実に取り組みます。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	未就学児の利用者数	35,841 人	利用者数の増加	36,172 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	利用者数の増加が、利用者の満足度の高い事業であることを示すことになるため、活動指標としました。  （最終目標と最終年度）利用者数の増加						
					順調	順調	
				やや遅れ			
					遅れ		

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  紙芝居等の読み聞かせや、親子体操、リズム遊び等の未就学児の親子を対象とした講座、教室等を実施しました。また、児童館内の親子ふれあいルーム等のフリースペースも活用し、未就学児の利用者数は増加していることから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  児童館の運営については、指定管理制度を導入しており、経済的・効率的な運営を行っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
未就学児の親子向けのプログラムの充実を図り、より多くの未就学児の利用を促進するとともに、中高生向けのプログラムについてもモデル的に取り組んでいきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	青少年ボランティアステーション推進事業						掲載ページ		
							103		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		1,876	千円	1,887	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか 青少年の健全育成に欠かすことができない様々な体験活動等を通じ、青少年が社会の構成員として規範意識や社会性、協調性等を身に付けることができるよう、青少年ボランティアステーションを拠点に、青少年のボランティア活動を支援・促進します。また、ひきこもりや非行等の課題を抱える青少年の社会的自立を支援するため、社会参加ボランティアプログラムを実施します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	年間を通じて、ボランティア活動情報の提供と参加者募集、そして活動調整及び活動時の支援を行います。 7～8月は、市内の小・中学生や高校生等を対象にした「夏休みの青少年ボランティア体験」を実施します。 ボランティアという社会貢献に対する意識を醸成することが重要と考え、広報・普及活動の一環として「ボランティア出前授業」を実施します。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	ボランティア体験活動者数（延べ人数）		6,342 人	3,200 人	5,279 人 165.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	青少年ボランティアステーションのコーディネートにより、ボランティア活動に取り組んだ小・中学生や高校生等の延べ人数が、本事業の活性化を図る一つの指標になると考え掲げました。 （最終目標と最終年度） 3,200人（平成26年度）							
	「ボランティア出前授業」参加児童・生徒等数		435 人	450 人	129 人 28.7 %	順調 やや遅れ 遅れ	順調	
市内の小・中学生やインターアクトクラブ等に所属する高校生等を対象にした「ボランティア出前授業」に参加することが、社会貢献活動に参加する契機となると考え、活動指標としました。 （最終目標と最終年度）								

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成26年度の「夏休みの青少年ボランティア体験」では、参加延べ人数は2580人（昨年度+423人）となり、多くの参加を得ることができました。また、事業全体を通してボランティア活動に参加意欲の高い学校等の裾野も広がり、青少年に対して貴重な社会体験活動の機会や場の提供ができていたことから、大変順調としました。 なお、「ボランティア出前授業」参加者数の減少は、対象者からの依頼の減少によるものです。他の広報の方法を含め、検討する必要があります。 現代の青少年に不足しがちな様々な体験活動をボランティアを通して実施させる本事業は、豊かな社会性や規範意識を育む、また、持続可能なよりよい社会の実現等に向けた「人づくり」のためにも大変有効です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	青少年課所管の様々な事業と連携して実施することにより、青少年ボランティアリーダーの養成等、効率的に事業を実施することができました。また、子ども・若者応援センターYELL等からの相談による自立支援、家庭裁判所等からの相談による立ち直り支援に向けた社会参加ボランティア活動も、関係機関や団体の協力と連携を図りながら実施することができています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
家庭や地域における様々な体験活動の不足が、青少年の「社会とのかかわりの自覚」や「自己の確立や向上」等を阻害しているといわれています。今後も、ボランティア活動を通じた豊富な体験活動プログラムの提供と活動支援を進めていくことが必要と考えます。そこで、中心事業の一つである「夏休みの青少年ボランティア体験」のPRや新たなプログラム開発（例：ギラヴァンツ北九州との連携、まちづくり協議会の事業への協力）や事業の増加を行います。また、小・中学生や高校生等を対象にした「出前授業」のPRを年度当初に行い、実施の拡充を図ります。そして、年間を通して、受け入れ施設や団体及び学校等を積極的に訪問し、ボランティア活動事後のお礼や報告を行うことで、よりよい信頼・協力関係の構築を目指します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	青少年施設ボランティア養成事業						掲載ページ		
							103		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		0	千円	1,750 青少年体験活動活性化事業の総額。本事業はその一部。	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	青少年施設をボランティア活動の場として積極的に提供するとともに、ボランティアに関する研修等を行うことで、青少年の健全育成や社会参加等を支援します。		活動実績	活動結果は、下記の通りです。		
活動計画	各青少年施設において、ボランティアとしての心得などに関する講義や、活動プログラムに関する技術や知識に関する講習などの施設ボランティア研修会を実施します。 ※平成23年度以降、青少年体験活動等活性化事業の中で青年リーダーの育成事業と併せてより効果的に事業を実施。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	青少年施設ボランティア登録者数	270 人	300 人	270 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	青少年施設をボランティア活動の場として積極的に提供していくために、青少年施設ボランティア登録者数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）300人（平成26年度）			90.0 %			
					順調	順調	
（最終目標と最終年度）				やや遅れ 遅れ			

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  青少年施設ボランティアは、青少年施設における主催事業等に欠かせない人材となっており、またボランティア自身の社会体験活動の場としても非常に有益であるなど、高い効果があります。 青少年施設ボランティア登録者数も現状を維持していることから、順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  青少年施設ボランティアにかかる必要経費（保険代、交通費等）が予算の大半であり、また青少年施設主催事業がそのまま施設ボランティアの活動の場となることから、事業の費用対効果は高いです。 また、青少年体験活動等活性化事業の中で青年リーダーの育成事業と併せてより効果的に事業を実施しています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
<p>研修事業については、青少年体験活動等活性化事業の中での青年リーダーの育成事業と併せて、より効果的な実施を目指します。 なお、本事業は「社会体験活動を通じた青少年健全育成のための新たな仕組みづくり」等と統合し、「青少年体験活動活性化事業」として一体的に進めます。</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	北九州市青少年ボランティア奨学金事業						掲載ページ		
							103		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		1,974	千円	0	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 青少年による様々なボランティア等の社会貢献活動への参加促進と人材の育成・確保を目指し、学業との両立を支援することを目的に、優れた活動を行っている生徒・学生に対して奨学金を給付します。	活動実績 活動結果は、下記の通りです。				
活動計画	青少年によるボランティア等の社会貢献活動の活性化に向けて、補助金を給付します。10月はボランティア奨学生募集期間として、1月の選考検討会を経て、3月には表彰式とボランティア活動報告会を開催し、奨学金を給付します。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	ボランティア奨学金受給者数	15人	20人	18人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	ボランティア等の社会貢献活動を行う青少年の裾野を広げ、質の高い活動を行う青少年を発掘し、社会的認知を高めることが社会貢献活動の活性化に寄与すると考え、活動指標としました。 （最終目標と最終年度）20人（平成26年度）			90.0%		
					順調	順調
（最終目標と最終年度）				やや遅れ		
				遅れ		

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	28人の申請者に対し、18名の奨学生に奨学金を給付しました。また、奨学金の授賞式や奨学生の活動報告会、選考検討会構成員からの講評など「北九州市青少年アワード」を開催する等、当初の計画通り活動できました。これらの活動を通して、青少年によるボランティア等の社会貢献活動の活性化に資することができています。以上のことから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ボランティア活動を行うことが、青少年自らの社会参画にもつながっています。青少年の体験活動不足が問題視される中、ボランティア活動に取り組む青少年の増加を図るだけでなく、青少年による社会貢献活動の有益性を啓発する意味においても、時機に合った事業です。そして、青少年ボランティアステーション推進事業との連携等により、効率的に事業を推進することができています。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

本事業は、平成26年度をもって、終了します。
------------------------

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	野外教育等推進事業						掲載ページ		
							103		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		465	千円	559	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 青少年施設での自然体験活動や共同生活体験等を通して、青少年が自然を大切にす る心や協調性等の「生きる力」を身に付けることを目的に、登山やキャンプ、野外調理等 の野外教育事業を実施します。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。				
活動計画	青少年の健全育成に有効であると考えられている野外等での集団生活や体験活動等を行うことで、 子どもたちが規律・協同・友愛・奉仕の尊さを学び、心身ともにたくましく育つことや、青少年に交流と 研さんの場を提供することで、幅広い人間形成や学習活動を促進することなどを目的とする事業を実施 します。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績 （達成率）	→	【活動の状況】
	青少年宿泊施設の利用者数 青少年施設での自然体験活動や共同生活体験等を通して、青少年 が自然を大切にする心や協調性等の「生きる力」を身に付けることが 必要であると考え、利用者数の増加をもって当該事業の活動指標とし て掲げました。 （最終目標と最終年度） 122,000人（平成26年度）	129,636 人	122,000 人	121,541 人 99.6 %	大変順調	活動指標の実績 を参考に、活動の 状況をチェック
	（最終目標と最終年度）				順調 やや遅れ 遅れ	順調

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】 を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、 活動は有効だったのかなど、 分析し課題を整理する。また、 影響を及ぼした外的要因の分 析も行う。 目標人数をほぼ達成しており、順調としました。 また、自然体験活動の機会が少ない現在の子どもたちにとって、各青少年施設の豊かな自然環境 の中で、各施設の特色を生かした自然体験プログラムを経験できることは大変有意義です。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」 得られないか。また、民間活 力導入による「経済性・効率 性」の向上はできないか。 事務費等の削減に努めています。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

当該事業は、子どもたちが自然体験活動や集団生活体験を経験することにより、自然を大切にする心や自立心、規律、協調性などの生きる力を身に付けていくうえで高い効果があるため、今後も野外教育事業を継続していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	チャレンジ100キロ ～歩け北九州っ子 若武者の旅～						掲載ページ		
							104		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		794	千円	831	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	4泊5日の共同生活をしながら、市内の山々の登山を含む全行程約100キロを歩き通すことに挑戦することで、心身ともにたくましい子どもの育成を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	3月25日～29日の4泊5日で、小学4年生～中学3年生80人を対象に「チャレンジ100キロ」事業を、ボランティアを中心とした約40人のスタッフで実施します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	心身ともにたくましい子どもの育成		-	心身ともにたくましい子どもの育成	-	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	長期間、共同生活をしながら登山などの自然体験活動を行うことで、心身ともにたくましい子どもの育成を図ります。 （最終目標と最終年度）						
	参加者数		101人	80人	80人	順調	大変順調
自然・集団体験事業の有益性に対する市民（特に保護者）の理解度を示す指標として掲げました。 （最終目標と最終年度） 100人（毎年度）							
				100.0%	やや遅れ	遅れ	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	受け入れ体制の縮小のため、参加者数は減少していますが、心身ともにたくましい子どもの育成に寄与することができたことから、順調としました。 毎年、たくましい北九州っ子が誕生していることはもとより、子どもの自然体験や集団体験の有益性を啓発する事業としても大変効果が高いものです。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	指定管理施設のバスを荷物搬送用として使用するなど、事業費の削減に努めました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
青少年施設（かぐめよし少年自然の家、もじ少年自然の家、玄海青年の家、児童文化科学館、夜宮青少年センター）と青少年課による連携事業として実施することが効率的であり、また、今後は活動プログラムの充実と実施体制のさらなる効率化を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	中高生の居場所づくりの推進						掲載ページ		
							104		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		465 野外教育等推進事業の 総額本事業はその一部	千円	559 野外教育等推進事業の 総額本事業はその一部	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	夜宮青少年センターにおいて、中高生が気軽に学習やスポーツ、文化活動、仲間との懇談等を行える環境を整えることにより、中高生の居場所づくりを支援します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	中高生が優先的に利用できる夜宮「中高生クラブ」・「中高生講座」を実施し、中高生の居場所づくりを支援します。また、ボランティア事業との連携を図ります。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	夜宮「中高生クラブ」の参加者数		721 人	—	1,290 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	中高生が気軽に学習やスポーツ、文化活動を行える機会がどのくらい提供されたのかを把握するため、夜宮「中高生クラブ」の参加者数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）						
	夜宮中高生講座の参加者数		10 人	—	16 人	順調 やや遅れ 遅れ	順調
夜宮青少年センターが主催した講座について把握するため、夜宮中高生講座の参加者数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）							

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「中高生クラブ」については、参加者数が1,290人となり、前年度よりも大幅に増加し、参加した青少年においては、バドミントン等のスポーツ活動などを行い、居場所として有効に機能したことから、順調と評価します。今後は、市内の中高生全体を対象と考えた場合は、さらなる充実のための検討が必要で
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	「中高生クラブ」では、夜宮青少年センターを開放して中高生の利用に供していますが、さらに有効活用できるよう自主事業である中高生講座の実施や、センターの周知に努める必要があります。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
中高生クラブ及び中高生講座の周知を行い、幅広く提供するとともに、内容の充実を図ります。「ユースステーション」との連携について検討します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	福祉・ボランティア教育用副読本の作成						掲載ページ		
							104		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	保健福祉局
		2468	千円	2,087	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	総務課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	小中学生が、地域社会の一員であることを理解し、他人を思いやる心やボランティア精神を育むことができるように、教育委員会や関係団体等との協働により、福祉・ボランティア教育用副読本を作成し、市内の国公立の小・中・特別支援学校へ配布します。				活動実績	平成27年度版福祉・ボランティア教育用副読本（小学生用、中学生用、中学生用指導書）を作成・配布しました。	
活動計画	福祉・ボランティア教育用副読本（小学生用、中学生用、中学生用指導書）を作成・配布します。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	配布学校での授業中の使用率		—	90 %	—	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	副読本の作成目的の達成のためには、学校での活用が重要であることから、副読本を授業等で使用する市内の小・中・特別支援学校の年間割合を活動指標とします。（※24,25,26年度はアンケート未実施）  （最終目標と最終年度） 90%以上（平成26年度）						順調	
							やや遅れ	
						遅れ		
						順調		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	予定通り、平成27年度版小学生・中学生用副読本・中学生用指導書を作成、平成27年3月末に市内の全小中学校、特別支援学校に配布しました。副読本は、毎年度改版して、市内の全小中学校に配布しており、継続して活用されていることから、福祉・ボランティア教育を実践するツールとして有効なものとなっていると考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	副読本の改訂にあたっては、前年度版の内容を精査し、最低限の箇所についての改版とすることで、コストの抑制を図りました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること	
平成27年度は内容の見直し等を含め、今後のあり方について検討し、平成28年度には新たな事業とする予定です。	

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	夏休み！ こどもバスぽ〜と						掲載ページ		
							104		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	交通局
		0	千円	0	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	総務経営課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	子どもの社会参加、自立、自主性の育成に貢献するとともに、子育てに対する保護者の経済的負担や送迎の負担を軽減するため、夏休み期間中に小・中学生向けに、1日乗車券の料金（小学生350円、中学生700円）で、7日間市営バスの全路線乗り放題の乗車券を発売します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	夏休み！ こどもバスぽ〜と事業を継続して実施します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	発売枚数  本事業を活用することが、子どもの社会参加や、自立・自主性の育成につながると考え、販売枚数を活動指標に掲げました。  （最終目標と最終年度） 1,000枚（平成28年度）	発売件数 :327件 （内訳） 小学生 :179件 中学生 :148件	発売件数： 1,000件	発売件数：397件 （内訳） 小学生：219件 中学生：178件  39.7 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	（最終目標と最終年度）				順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ	

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  少子化の影響や利便性・安全面からのマイカーへの回帰等により、発売枚数は減少傾向となりましたが、PRの効果により平成26年度は平成25年度に比べ発売枚数が約21%増となっています。また、乗車券を発売することによって、子どもの社会参加、自立、自主性の育成等に貢献していることから、有効であると考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  経費はほとんどかからないので、経済性・効率性は高いと考えます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
有効性を発揮しており、現状のまま継続することが適当であり、今後も積極的にPRを行います。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	家庭・地域・学校の連携推進						掲載ページ		
							104		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		2,682	千円	2,856	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	生涯学習課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	家庭・地域・学校等が連携して、子どもたちに様々な体験活動の機会を提供し、地域ぐるみで子どもを見守り育てる意識を高め、地域全体で子どもの健全育成に取り組む機運を醸成します。				活動実績	「地域・子ども交流事業」について藍島市民サブセンターの事業実績がなく（市の予算を使わず単独で実施）、実施箇所数は129館と減少しましたが、参加者数は増加しました。また、「生き生きバリアフリー」は実施箇所数と参加者数が増加しました。「生活体験通学合宿」については、実施箇所数は減少しましたが、一箇所あたりの参加者数が増加しました。	
活動計画	青少年に薬物の正しい知識を持ってもらうため、街頭啓発キャンペーンを実施するなど、市民への薬物乱用防止にかかる啓発を行います。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		→	【活動の状況】
	市民センターでの子ども交流事業や体験活動事業への参加者数		59,775 人	66,000 人	60,766 人		大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	世代間交流やさまざまな体験活動の機会等を提供する事業を市民センターで実施します。参加状況を確認するため、参加者数を指標と設定しました。毎年、参加者数が1,000人ずつ増加することを目標としました。 （最終目標と最終年度）30年度 70,000人				92.1 %			
（最終目標と最終年度）						順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市民センターにおいて、「地域・子ども交流事業」（129館、延べ57,133人）、「生活体験通学合宿」（2館、延べ419人）、「生き生きバリアフリー」（5館、延べ3,214人）を実施しました。なお、「生活体験通学合宿」については事業開始から10年以上が経過し、実施希望館及び参加者数が徐々に減少しているため、今後の事業のあり方について検討が必要です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	適宜、国の補助金を活用するとともに、地域の人材やボランティアの協力を得ながら、多様なプログラムを実施しました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること	
子どもの生きる力をはぐくみ、心豊かでたくましい子どもを育てるため、事業のあり方も含め関係課と協議しながら、より充実した内容で実施できるよう検討を進めます。	

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	児童健全育成ボランティア推進事業						掲載ページ		
							105		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		2,830	千円	3,008	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	子育て支援課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	児童館における児童健全育成活動や子育て支援活動をより充実し、地域全体に広げていくために、児童館を拠点として活動しているボランティア組織「みらい子育てネット(母親クラブ)」の活動を支援し、その充実を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	「みらい子育てネット」の活動を支援し、児童健全育成活動や子育て支援活動を充実させます。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	「みらい子育てネット」の活動への支援	—	—	—	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「みらい子育てネット」の活動を支援し、その活動内容の充実を図ることが、地域における子育て支援につながると考え、活動指標としました。 (最終目標と最終年度)					
					順調	順調
(最終目標と最終年度)				やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  「みらい子育てネット」15クラブにおいて、公園の安全点検や児童館での絵本の読み聞かせ、紙芝居、児童館まつりなどを実施し、地域の子育て世代から感謝の声が聞かれ、地域の子育て活動の推進に寄与していることから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  地域の子育て支援活動の充実を図るために、市の直接実施でなく、地域の民間団体に支援することで、効率性が高い活動を行っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
引き続き「みらい子育てネット」への支援を行い、児童健全育成活動や子育て支援活動の充実を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	子ども会等地域活動推進事業						掲載ページ		
							105		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		383	千円	835	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

## 【Plan】計画 →

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 地域での子どもの活動を活性化するため、地域で子どもたちが活動し成長する環境づくりや、そのような活動に携わる市民への支援を行います。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	遊びの達人派遣事業や出前講演を着実に実施することにより、子どもの地域での活動の活性化を図ります。	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	遊びの達人派遣事業参加者数	地域での子どもの活動の活性化に繋がることから、活動指標としました。 （最終目標と最終年度）	3,260 人	4,000 人	3,261 人 81.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
出前講演参加者数 地域での子どもの活動の大切さの啓発を行う出前講演に参加した市民の数を指標としました。 （最終目標と最終年度）		443 人	500 人	156 人 31.2 %		

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	参加者数は目標に達しないものの、遊びの達人派遣事業による子どもの活動の活性化や、出前講演による啓発は各団体などから高い評価を得ていることから、順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	事務費等の事業費の削減に努めました。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

遊びの達人派遣事業や出前講演などで、子どもの地域での活動を活性化させる啓発活動を着実に実施していきます。また、子ども会や市民センターなど、地域での子どもの健全育成を図るさまざまな団体や事業を広く支援していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	遊びの広場促進事業						掲載ページ		
							105		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		897	千円	1,013	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 市内の団体やグループが実施する子どもの体験活動の中から、他のグループの参考になる事業に対して補助金交付等の支援を行い、異年齢集団活動や自然体験など子どもの主体的な体験活動を促進する、子ども会をはじめとした青少年育成団体などの活動の活性化を図ります。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動計画	市内の団体やグループが実施する子どもの体験活動の中から、他のグループの参考になる事業に対して「遊びの広場促進事業補助金」を交付します。また、遊びの広場促進事業の広報および要項・要領・運営指針の見直しを図ります。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	助成団体数	15 団体	10 団体	10 団体	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子ども会をはじめとした青少年育成団体などの活動の活性化を図るため、予算の範囲内において補助金を交付します。  （最終目標と最終年度）10団体（毎年度）			100.0 %		
					順調	順調
				やや遅れ		
					遅れ	

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	補助金を交付した団体の中には、他の団体に対するモデルケースとなるような成功事例や行政の事業施策の参考となるような事例も出てきており、当該事業の有効性は極めて高いものがあります。平成26年度においても、引き続き有効な活用ができたことから、活動の状況は順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	有識者による選考検討会で、補助対象や補助金額等を厳正に審査した結果に基づき補助金を交付しています。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

近年、既存の青少年育成団体加入者数は減少傾向にある一方、既存の青少年育成団体に加え、各地域において多様な青少年育成活動を行う団体が増加傾向にあります。そのため、このような地域団体の活動も支援していく必要があり、今後とも制度の周知や成功事例報告を積極的に実施していきます。また、青少年の健全育成における行政課題の解決を図るため、青少年育成団体やNPO団体等との協働提案型モデル事業の実施も検討していきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	青少年団体育成補助金						掲載ページ		
							106		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		5,685	千円	5,984	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	青少年課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	青少年の健全育成や非行防止活動を推進するため、青少年団体の運営や活動に対して、補助金を交付し支援します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	青少年の健全育成を行う青少年団体に対し、団体の運営や活動について、補助金を交付します。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	青少年育成団体に対する活動促進のための支援団体数	314 団体	-	285 団体	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	青少年育成団体が健全に運営されることは、青少年の健全育成を図るうえで最も大切なことと考え、青少年育成団体に対する活動促進の為に支援団体数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度）					順調
	（最終目標と最終年度）				やや遅れ	順調

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  支援団体数は減少していますが、青少年育成団体への事業補助により、各団体の健全な運営が保たれている結果、市内における青少年の健全育成活動や非行防止活動の推進が図られました。また、行政が主催する事業について、団体の協力も得られるなど、民間と行政の協働による青少年健全育成の推進が図られています。以上のことから、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  従前より、各青少年育成団体の事業実態を踏まえ、補助金がより一層効果的に利用されるよう指導しています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
<p>青少年育成団体が健全に運営されることは、青少年の健全育成を図るうえで最も大切なこととなるため、今後とも当該事業をより経済的・効果的に継続する必要があります。</p> <p>なお、本事業は「社会体験活動を通じた青少年健全育成のための新たな仕組みづくり」等と統合し、「青少年体験活動活性化事業」として一体的に進めていきます。</p>

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業						掲載ページ		
							106		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	市民文化スポーツ局
		3,459	千円	3,779	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	スポーツ振興課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 総合型地域スポーツクラブは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブです。多世代、多種目、多志向を特徴とし地域住民により自主・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブは、これからの地域スポーツの中核をなすものです。本市における成人の週1回のスポーツ実施率の向上のためにも、果たす役割は大きいことから総合型地域スポーツクラブの会員数拡大を目指します。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。				
活動計画	総合型地域スポーツクラブの会員数増加のためには、市民にとってクラブへの入会を魅力あるものにする必要があります。広報・PR強化のみではなくクラブの質の向上を図るため、交流事業や勉強会を定期的に開催し、指導者の充実やクラブを円滑・安定的に運営できる人材の育成等に努めます。					
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	総合型地域スポーツクラブの会員数	2,320 人	2,500 人	2,342 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	スポーツをする人、支える人など市民のスポーツへの関わりが表れている総合型地域スポーツクラブの会員数を指標とします。 （最終目標と最終年度）4,000人（平成32年度）			93.7 %		
						順調
（最終目標と最終年度）						

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動の状況については、目標には達していないものの、昨年度より会員数が増加していることから、「順調」としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は施策に対する有効性も高く、地域住民が出し合う会費や寄附などにより自主的に運営される総合型地域スポーツクラブを支援することは、「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を効率的に推進していく上で重要な事業であると考えています。今後、クラブの運営・事業に、例えば、地域のスポーツ活動を支えていただいているスポーツ推進委員などが多く参加できる仕組みづくりを検討することなどにより、地域の活動促進及び経費節減を図るよう努めます。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

現存する総合型地域スポーツクラブの質の向上に向けた支援を行うとともに、広報・PR活動を強化します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	ドリームスポーツタウン推進事業						掲載ページ		
							106		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える健康づくり	担当局	市民文化スポーツ局
		8,366	千円	64,450 <small>(ホームタウン推進事業の総額本事業はその一部)</small>	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	スポーツ振興課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	プロスポーツチーム等によるサッカー巡回指導や、親子サッカー教室、女子サッカー大会の実施などを通して、青少年の健全育成やサッカー技術の向上を図ります。			活動実績	活動結果は、下記のとおりです。 なお、平成25年度サッカー巡回指導受講者数において、スポーツ大会等のイベントで実施された受講者数(3,295人)が含まれていたため、実績数(6,579人から3,284人)及び目標値(6,000人から3,300人)を変更しました。  また、親子サッカー教室は、予算削減により教室実施回数が減少(40回から20回)したため、目標値を2,000人から1,000人に変更しました。	
活動計画	Jリーグ2部(J2)で活躍する「ギラヴァンツ北九州」のコーチングスタッフによる子ども達を対象とした「サッカー巡回指導」や、親子を対象とした「親子サッカー教室」、「女子サッカーの普及・育成を目的とした「北九州レディースサッカー大会」などを実施します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	サッカー巡回指導の受講者数		3,284 人	3,300 人	3,213 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	より多くの青少年が、プロチームのコーチから直接技術指導を受けることで、健全育成や技術力向上を図ることを目的とするために設定しました。 (最終目標と最終年度) 32年度まで継続				97.4 %		
	親子サッカー教室の参加者数		2,004 人	1,000 人	1,004 人	やや遅れ	順調
スポーツを好きになるきっかけづくりとして、有効な事業と考え、設定しました。 (最終目標と最終年度) 32年度まで継続		100.4 %			遅れ		

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		成果目標としている「サッカー巡回指導の受講者数」、「親子サッカー教室の参加者数」が、ほぼ目標どおりとなったため、「順調」としました。  プロスポーツチームを活用したスポーツ振興施策は、子ども達に夢と感動を与える有効な事業であることから、効率的に事業実施が図れるよう経費節減に努めます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
ホームタウン推進事業として、プロスポーツ選手を活用した「一流スポーツ体験による夢・感動プロジェクト」や「多職種他世代スポーツふれあい事業」等を実施します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	わくわく体験スポーツ教室						掲載ページ		
							106		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若松の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	市民文化スポーツ局
		14,926	千円	14,675	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	スポーツ振興課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	近年、テレビゲームなどの屋内遊具の発展・普及により、青少年の運動不足が懸念されており、特に冬期には屋外での運動が減少する傾向にあります。そこで、冬期のスポーツとしてのバランス感覚や柔軟性の向上に最適なアイススケート教室を学校授業の一環として実施し、青少年の健全育成と生涯スポーツの振興に役立てるものです。					
活動計画	本事業は平成25年度までは市内の小学生(1~2年生)を対象に学校の授業として実施をしていましたが、学校の負担軽減及び予算額の見直し、対象児童の拡大を図るため、全小学生(1~6年生)を対象としたスケート招待事業として実施します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	参加児童数	-	5,000人 ※参加者5,000人(全児童の約1割)	7,137人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	青少年の健全育成と生涯スポーツの振興を促進するため、全小学校児童(1~6年生)を対象とすることが有効と考え、活動指標としました。 (最終目標と最終年度)参加者 15,000人(平成32年度)			142.7%			
					順調	順調	
(最終目標と最終年度)				やや遅れ 遅れ			

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		平成25年度までは市内の小中学校1~2年生を対象に学校スケート教室として実施していましたが、平成26年度からは、送迎バスの予算の削減を行い、対象児童を小学校6年生まで拡大し事業を実施することとしました。 運動機会の少ない冬季の期間において、運動機会の提供を図るとともに、スケートを通じた体力向上や学校以外での運動機会の定着について一定の成果を挙げることができたことから順調としました。
		平成26年度の事業見直しにより、送迎バス等の予算の削減を図るとともに、無料招待事業の対象児童の拡大を図ることができました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
今年度同様、コスト削減に努めながら事業を実施していくとともに、参加者の増加に向けて、学校等と連携を図っていくこととしています。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	学校施設開放事業(旧:学校開放事業)						掲載ページ		
							107		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		39,747	千円	43,948	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	生涯学習課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	地域スポーツの普及及び児童の安全な遊び場を確保するため、学校の教育活動に支障のない範囲で小中学校の施設を市民に開放します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	本事業は、文科省の補助事業(1/3補助)を活用しながら市が直接実施しており、今後も学校教育活動に支障のない範囲で積極的に学校施設開放を推進します。							
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)		→	【活動の状況】
	遊び場開放事業指定校数		128 校	130 校	128 校		大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	小学校の運動場又は体育館を該当小学校の校区内の児童の遊び(児童の団体が行うスポーツを含む。)の場として開放している学校数を指標として設定しました。 (最終目標と最終年度) 市内130校全ての学校で実施します。				98.5 %			
	スポーツ開放事業指定校数		183 校	192 校	183 校		順調 やや遅れ	順調
小学校又は中学校の運動場又は体育館を成人及び勤労青少年の団体が行うスポーツの場として、中学校の武道場を成人及び青少年の団体が行う武道の場として開放している学校数を指標として設定しました。 (最終目標と最終年度)市内192校全ての学校で実施します。		95.3 %			遅れ			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	地域スポーツの振興及び児童の安全な遊び場としての機能を発揮するとともに、少年少女の団体スポーツも盛んに行われており、青少年の健全育成の場としても必要とされている事業となっています。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	国の補助金を活用し、管理指導員として地域の人材に活躍いただくことで、地域の教育力を高めながら効率的、効果的に推進していると考えています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること	
周辺住民や利用者との調整を図るとともに、土曜授業の動向を踏まえながら、引き続き学校教育活動に支障のない範囲で小中学校の運動場・体育館・武道場を市民に開放します。	

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	夏休み子ども文学館開催事業						掲載ページ		
							107		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	市民文化スポーツ局
		5,636	千円	5,052	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	文学館

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	夏休み期間を利用して子どもを対象とした企画展、イベント、作品募集などを開催し、文学館の利用を促進するとともに、子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的とします。 子どもたちに魅力のある企画展の開催と、PR活動の工夫を行い、利用客の増加を図ります。		活動実績	夏休み企画展は、平成25年度の反省を踏まえて子ども、家族連れ等に幅広く楽しんでいただけるラインナップを見直した結果が入館者増加につながりました。詩のコンクールも学校訪問などを行い積極的に広報活動を行ったことにより、1,000件を超える応募がありました。		
活動計画	平成26年度は、「みんな大好き！ノタン展」を開催します。 第5回目となる、「あなたにaitakute生まれてきた詩コンクール」では、近隣市町村へも広報を行い、応募者数増加を目指します。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	夏休み企画展 関連イベント開催回数		3回	3回	4回 133.3%	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	企画展をさらに楽しむとともに、来館者を増やすため、関連イベント(講演会等)の開催件数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度)						
	詩コンクールの広報		積極的な広報活動の実施	順調	やや遅れ	遅れ	順調
詩コンクールの応募者増、市外からの応募者増を図るため、積極的な広報活動を行います。 (最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成25年度の反省を踏まえて企画展のラインナップを見直した結果、平成26年度の夏休み企画展「みんな大好き！ノタン展」の来館者は、平成25年度の3.5倍以上となりました。「詩のコンクール」応募作品数は、前年度より増加し、1,000件を超えました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	子どもたちの関心、興味を引く展示・企画を行うために、毎年異なる企画を実施しています。そのため、年度によって開催経費が増減しますが、より無駄な支出を抑え、子どもたちがより興味を持つ展示会を実施できるよう内容を検討しています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
子どもたちの関心をひくような企画展・関連イベントを実施します。また、昨年度に引き続き詩のコンクールも実施します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	子どもたちの文化体験事業						掲載ページ		
							107		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	市民文化スポーツ局
		3,698	千円	6,114	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	文化企画課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	学校訪問コンサートなどの文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手として育成します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	北九州市民文化賞・奨励賞を受賞した芸術家(主に音楽)を小学校等に派遣し、子どもたちに生演奏等を提供する学校訪問コンサートを実施します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→ 【活動の状況】
	学校等訪問コンサートの満足度		-	90 %	80 %	大変順調
	学校等訪問コンサートを実施することで、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手の育成につながると考え、内容の充実度を測るため、H26年度より参加人数ではなく満足度を指標としました。 (最終目標と最終年度) 90% (平成27年度)				88.9 %	
					やや遅れ	
					遅れ	順調
		(最終目標と最終年度)				

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子どもたちが間近で生の演奏等を興味深く鑑賞し、学校の先生からも子どもたちへ良い影響を与えることが出来たとの意見が寄せられたこと、また、8割の参加校から継続して訪問コンサートを実施したいとの希望があったため、活動は順調と判断しました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	可能な部分において外部委託による効率化をさらに進めていきます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
文化の裾野を広げるため、過去に訪問していない学校を中心にコンサート等を実施し、音楽だけでなく能など、身近に触れる機会の少ない分野のアウトリーチも行います。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	子ども文化ふれあいフェスタ						掲載ページ		
							107		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	市民文化スポーツ局
		3,060	千円	2,855	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	文化企画課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手として育成します。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	8月下旬に地元文化団体等が企画したワークショップ等を実施し、芸術文化に対する関心を高めま				す。		
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→ 【活動の状況】	
	子ども文化ふれあいフェスタ参加者の満足度		94 %	90 %	96 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手の育成につながると考え、子ども文化ふれあいフェスタへの参加者の満足度を指標としました。 (最終目標と最終年度) 90% (平成27年度)				106.7 %		
							順調
(最終目標と最終年度)							

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  参加者の満足度が増え、また参加したいという意見が大多数だったことから、順調としました。子ども文化ふれあいフェスタは、子どもたちが普段接することがあまりない伝統芸能の分野(日本舞踊、いけばな、琴等)を中心とした、体験型の催事で、実際に体験してもらうことで、その楽しさを実感してもらうことができ、芸術文化の担い手の育成に向けて貢献していると考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  当日の運営業務等は外部委託によって行っており、専門性を保ちながら低コストで実施しています。さらなる効果が得られるように、工夫していきます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
企画内容等を工夫しながら、事業目的の実現に向けて取り組んでいきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	少年少女合唱団・ジュニアオーケストラ育成						掲載ページ		
							108		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	市民文化スポーツ局
		13,439	千円	87,314	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	文化企画課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	北九州市少年少女合唱団、北九州市ジュニアオーケストラの活動を支援します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	北九州市少年少女合唱団では、地域の音楽文化を担う演奏家の育成と活躍の場を広げるため、定期演奏会やサマーコンサートの支援を実施します。また、北九州市ジュニアオーケストラでは、情緒豊かな青少年の育成及び市民文化の向上を図るため、定期演奏会やスプリングコンサートの支援を実施します。							
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	北九州市少年少女合唱団の団員数		104人	100人	110人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	地域の音楽文化を担う演奏家の育成につながると考え、北九州市少年少女合唱団に在籍している人数を指標としました。 (最終目標と最終年度) 100人 (平成27年度)				110.0%			
	北九州市ジュニアオーケストラの団員数		103人	95人	91人	順調 やや遅れ	順調	
情緒豊かな青少年の育成及び市民文化の向上につながると考え、北九州市ジュニアオーケストラに在籍している人数を指標としました。 (最終目標と最終年度) 90人 (平成27年度)		95.8%						

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	定期演奏会だけでなく、「合唱組曲北九州」演奏会やチャリティースプリングコンサートなどに出演するなど、少子化が進む中で熱心に活動をしています。また、指導者だけでなく団OBの協力を得ることにより、年齢に応じた指導が行われています。これらの活動を通じて音楽分野だけでなく子どもたちの情操教育にも大きく役立っていることから、活動状況を順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は市の外郭団体がっており、市が直接運営するより、コスト面で効率的な運営が行われています。本市において、このように専門性を保ちながら、計画的で総合的に事業を行う民間団体はなく、現状のように市が関与することが必要です。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
少子化により、団員数の増加を見込むのは困難と考えますが、活動に対する支援を続けることで「青少年の健全育成」を図っていきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	ジュニアマイスター養成講座						掲載ページ		
							108		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	子ども家庭局
		3,596	千円	4,590	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	児童文化科学館

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	子どもたちに科学体験やものづくりを通して、北九州市の産業を支える技術者が築き上げた「ものづくり」の精神を伝え、新しい時代を切り開く科学技術の根幹となる「科学がすき、ものづくりがすき」な子どもたちの育成を図ります。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	事業の目的達成に向け、積極的に科学の普及やものづくりの普及活動を推進します。							
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】		
	科学実験・科学工作等の参加者数	8,343 人	8,000 人	8,712 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	科学実験・科学工作等の参加者の増加が、その普及活動の拡大を示すものであることから活動指標として掲げました。 (最終目標と最終年度) 8,000人(平成26年度)			108.9 %				
	(最終目標と最終年度)					順調		

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  各教室、講座への参加人数は順調に推移しています。科学の普及を目的とし、子どもたちの興味関心を引き出すため、各種の教室、講座を実施しています。毎回定員を超える応募があり、高等教育機関や企業の協力、サイエンスレンジャー、外部講師による科学実験や工作を実施し、参加者からは毎回好評を得ていることから、順調と判断しました。また、講師等の協力者についてはさらに拡げていきたいと考えています。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  廃材料の使用、無料講義の実施など低コストで、より市民に喜ばれるよう計画実施しています。しかし、これ以上の予算削減では、教室・講座の削減を検討していかなければならず、市民の要望に十分こたえることができなくなる恐れがあります。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
参加者数の目標を平成25年度に1年早く達成することができました。平成26年度も参加者が増加していますので、これを継続し、対前年度増を目指し、より魅力的な事業を企画し実施していきます。 年間を通して、多くの市民の参加を得るためには、PR活動が重要です。科学分野については、生物に関するクラブ、電波に関するクラブ、宇宙に関するクラブなどに力を入れ、子どもたちの新しいニーズにこたえられるよう努めていきます。 また、タイムリーなテーマをとらえ、受け入れやすいネーミングをつけたイベントの企画やさらなるPR活動に力を入れていきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	こども文化パスポート						掲載ページ		
							108		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		2,495	千円	2,511	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	企画課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	様々な施設を訪れることで、子どもたちが地域の文化・歴史・自然に多く触れ、豊かな心を育むとともに親子の触れ合う機会が増えることを目指します。			活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	本事業の参加施設に対し実施したアンケートの結果を踏まえ、施設側にとってはより運営しやすく、利用者側にとってはより参加しやすいパスポートを作成します。本事業のPRや説明会は市が実施しますが、パスポートの作成、配付については委託で実施します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】	
	利用者数 当事業に対するニーズや適切な運営状況を反映するものとして、当指標を設定しました。 （最終目標と最終年度）配布対象者の7割	71,300 人	102,200 人	55,994 人 54.8 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	参加施設の意見（アンケート調査） 参加施設の事業効果を把握するため、当指標を設定しました。 （最終目標と最終年度）	実施	本事業が施設のメリット（来館の契機、施設の魅力の周知）につながることに。	来館の契機となった、来館者の増加に繋がった等、アンケート回答施設の約5割から概ね満足の評価を得ています。	順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ	

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 参加施設の約5割が概ね満足していると回答（やや不満、不満と回答した施設は、約1割）を得たものの、利用人数が目標の半数程度であったため、「やや遅れ」としました。 パスポートは約144,000人の対象児童生徒等全員に配布するとともに、市政だより・市のHP等で参加を促しました。多くの子どもたちが地域の文化や歴史になどに触れ、豊かな心を育むきっかけづくりになっています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 パスポート提示者に対する入場料の減免や景品の一部については各施設に負担していただいています。また、この事業は近隣の都市との連携事業として実施しているため、子どもたちは近隣都市の施設でもパスポートを使うことができるほか、事業費に関しては、参加都市間で負担することで、単独で行うより負担を軽減出来ています。また、施設にとっては、近隣の都市の住民にも自施設を紹介できる効率的な広報手段となっている面もあると考えています。以上のことから、経済性・効率性の高い事業であると考えています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
施設に無料又は割引で入場できる仕組みは維持しつつ、集客施策の見直しを行います。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	わくわくアートミュージアム事業						掲載ページ		
							108		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	市民文化スポーツ局
		2,829	千円	3,155 <small>(美術館教育普及事業の総額。本事業はその一部)</small>	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	美術館普及課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価		
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	美術館が教育機関及び保護者との連携を強化し、子どもたちの美術に親しむ態度を育てるための様々な取り組みを行い、子ども達を将来の地域文化の担い手に育てます。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動計画	小中学校及び保護者と連携して、美術鑑賞教室や子ども向けワークショップ(チャレンジアートミュージアム・サマーアートミュージアム)などを実施します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)		前年度実績	目標	実績(達成率)	→ 【活動の状況】
	美術鑑賞教室の実施回数		18回	60回	26回	大変順調
	子どもたちの美術に親しむ態度を育てるための取り組みが、将来の地域文化の担い手育成につながると考え、美術鑑賞教室の実施回数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度) 60回 (平成26年度)				43.3%	
	子ども向けワークショップの実施回数		9回	10回	9回	順調 やや遅れ
子どもたちの美術に親しむ態度を育てるための取り組みが、将来の地域文化の担い手育成につながると考え、子ども向けワークショップの実施回数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度)		90.0%			遅れ	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	【経済性】 【効率性】の分析	小・中学生を対象とする美術鑑賞教室、館内授業など、学校との連携事業は年々定着してきています。美術鑑賞教室については要望した学校数の減少により目標回数を下回りましたが、昨年の1.5倍近く実施した結果となったことから、順調としました。
		美術鑑賞教室の解説に美術ボランティアを起用するほか、各種ワークショップでは、美術館サポーターを参画させてマンパワーを充実させています。また、「たんけんパスポート」の利用促進については、小・中学校と連携しながら保護者向けのPRの強化を目指しています。以上、美術館の持つ、学芸員の専門性を活かしながら市民参画や学校との連携を強化し、経済性と効率性を意識しながら事業を実施しています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
平成27年6月から美術館本館休館のため、美術鑑賞教室の実施回数が減ることが予想されます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	博物館セカンドスクール事業						掲載ページ		
							109		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	市民文化スポーツ局
		1,939	千円	2,084	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	自然史・歴史博物館普及課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	博物館を第二の学校(教室)としてとらえ、子供たちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習の意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、「博物館への誘致事業」、「学校教育支援事業」、「家庭教育支援事業」、の3つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館の結びつきを強めます。					
活動計画	修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間としての博物館利用の促進を図るため、来館状況の分析に基づく誘致活動を行います。特に、県内の来館実績の少ない地域へのPR活動を強化を図ります。						
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	学校団体誘致数	1,370 団体	1,000 団体	1,263 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	博物館での体験が、理科・社会科への学習の意欲を持たせる仕組みづくりにつながると考え、学校団体誘致数を活動指標に掲げました。 (最終目標と最終年度)平成30年度まで1,000団体を維持			126.3 %			
	(最終目標と最終年度)					大変順調	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		活動の状況については、教育委員会等との連携を図りながら、セカンドスクール事業への理解を得ることができたことにより入館者数の増加につながりました。加えて、修学旅行等の誘致活動を積極的に行った結果、その効果もあり目標達成率の大幅な増加となったことから、大変順調としました。
		来館状況の分析に基づく誘致活動計画を作成し、関係先や旅行会社への誘致活動を絞り込み、効率性を高めるよう努めました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
当博物館は、社会教育施設としての役割に加え、地域の賑わいの拠点施設として、県内外から多数の来館者があります。中でもセカンドスクールとして学校団体の来館数も多く、県外からの修学旅行生も大きな割合を占めています。 今後は、本市が進める「北九州市新成長戦略」に掲げる「にぎわいづくりによる集客交流産業の拡充」の一環として、修学旅行の誘致に努めていきます。また、修学旅行等は来館時期が重なることから、ボランティアの協力を得るなどして受入れ体制の確保に努めていきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	こども環境学習推進事業						掲載ページ		
							109		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自律を支える環境づくり	担当局	環境局
		4,011	千円	3,532	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	環境学習課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたいのか	本市の未来を担う子どもたちを対象に、環境学習を体系的、計画的に実施し、環境意識の高い児童、生徒の育成を目指します。		活動実績	「みどりのノート」については、市内の全小学校に配布し環境学習の機会を提供しました。「環境教育副読本追加版」について、平成26年度追加分を作成して市のホームページに掲載し、北九州市環境首都検定ジュニア編検定受検の機運を高めました。また、小学校受検校には受検者へ冊子の配布を行いました。こどもエコクラブについて、登録団体の活動を紹介したこどもエコクラブだよりを作成し、未来ホテルデー等のイベントで環境カードゲーム「エコとり物語」参加者やブース来訪者に配布し、加入の促進を図りました。			
活動計画	「みどりのノート」の改編を行い、市内全小学校等に配布し環境教育の教材として利用を広げるとともに、「環境教育副読本追加版」を作成し、北九州市環境首都検定のジュニア版テキストとしての利用を広めます。また、こどもエコクラブの活動を紹介（広報）し、こどもエコクラブの加入促進を図ります。				実績（達成率）	→	【活動の状況】	
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標				
	こどもエコクラブ登録団体数		19 団体	40 団体	18 団体	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	こどもエコクラブは3才から高校生の子どもたちが、地域の中での主体的な環境学習や実践活動を通じて、将来にわたり環境を大切にすることを目的とした団体のため、こどもエコクラブに登録し、活動を展開している団体数を活動の指標としました。  （最終目標と最終年度） クラブ数 40団体（平成31年度）				45.0 %			順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ	遅れ		

【Check】評価（分析）		
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	「みどりのノート」の利用促進については配付しましたが、利用率は70%であることから、100%に近づける工夫が必要と考えられます。「環境教育副読本追加版」については市のホームページに掲載し、北九州市環境首都検定を受検する小学校には冊子を配布しました。今後は全小学校への冊子の配布を検討し、市民がより利用しやすいよう工夫していくことが必要と考えます。こどもエコクラブの加入促進については、イベント等において環境カードゲーム「エコとり物語」を活用し、多くの子ども達や保護者への環境啓発ならびにこどもエコクラブのPRを行いました。こどもエコクラブ団体数増加にはあまりつながりませんでした。平成26年度に引き続き、サポーター役となる保護者へのPRを進めるとともに、活動内容を充実させていくことも必要と考えられます。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  イベント会場だけでなく、小学校の校長会や、幼稚園・保育園の園長会等を利用して効率かつ積極的なPRを行い、「みどりのノート」や「環境教育副読本追加版」の利用促進と、こどもエコクラブの加入促進に努めていきます。こどもエコクラブの活動について、専門的に活動している団体等の意見も参考に業者委託も検討し、ローコストで充実した活動を検討していきます。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
引き続き、「みどりのノート」やこどもエコクラブの積極的PR活動（イベント及び幼稚園・保育園・小学校への広報）を行います。加えて、こどもエコクラブ交流会、壁新聞教室等を実施し活動内容の充実を図り、こどもエコクラブの継続加入へ繋げます。また、北九州市環境首都検定ジュニア編テキスト（北九州市環境教育副読本追加版）を市内の小中学校へ全校配付し利用を促進します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	わくわく農業体験事業						掲載ページ		
							109		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	産業経済局
		959	千円	7,570 <small>「地元いちばん推進事業」の総額。本事業はその一部。</small>	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	農林課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	食農教育として、小学生に対し農作業体験等を通して食の大切さを学んでもらい、健全な育成を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	田植えや稲刈りなどの農作業体験、子供たち自身によるパケツ稲の栽培、農家等による農業の苦労話などの農業体験学習を開催します。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	農体験学習の開催件数（学校数）		16 校	15 校	18 校	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	農作業体験等を通して食の大切さを学んでもらうため、農体験学習の開催学校数を活動指標としました。 （最終目標と最終年度） 毎年度15校（平成26年度）				120.0 %		
						順調	大変順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動は予定通り行い、目標を大幅に達成達成することができたことから、大変順調としました。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現行の活動状況は十分効率的かつ経済的であると考えています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
青少年の健全育成及び農林水産業の理解促進のためにも今後もこれらの取り組みを継続して実施する必要があると考えています。なお、本事業は、「地産地消・学校給食推進事業」と統合し、「地元いちばん推進事業」として、一体的に取り組んでいきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	地産地消・学校給食推進事業						掲載ページ		
							109		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	産業経済局
		49	千円	7,570 「地元いちばん推進事業」の 総額。本事業はその一部。	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	農林課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 子供たちに「食と農」及び「地産地消」の重要性を理解してもらい、健全な育成を図ります。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。				
活動計画	小学校において、「食と農」の出前講演を開催します。 また、農協や農業者等に対し、市内産農林水産物の給食食材への安定供給や利用拡大を推進します。					
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	食と農の出前講演の開催	2校	2校	2校 100.0%	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子どもたちに「食と農」や「地産地消」の重要性を理解してもらうことに繋がることから、食と農の出前講演を開催した小学校数を活動指標としました。 (最終目標と最終年度) 毎年度2校 (平成26年度)					
	学校給食の地場産物(野菜等青果物)の割合	44%	45%	41.5% 92.2%	順調 やや遅れ 遅れ	順調
学校給食における地産地消を進めるため、学校給食の市内産物(野菜等青果物)の使用品目数の割合を活動指標としました。 (最終目標と最終年度) 45% (平成27年度)						

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	出前講演については目標を達成したことから、順調としました。 また、目標達成できなかった学校給食食材への品目数の割合について、割合は下がっているものの、品目数は22品目と昨年と同じ品目数となり順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現行の活動状況は十分効率的かつ経済的であると考えています。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

青少年の健全育成及び市内農林水産業の振興のためにも今後もこれらの取り組みを継続して実施する必要があると考えています。  
なお、本事業は、「ワクワク農業体験事業」と統合し、「地元いちばん推進事業」として、一体的に取り組んでいきます。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	市民とともに進める自然環境の保護						掲載ページ		
							110		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		0	千円	0	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	公園管理課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	自然環境の重要性に対する市民意識の啓発を図ります。		活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	自然環境学習施設の拠点としての活用を図ります。						
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
	自然観察会等への参加人数		7,496 人	-	14,854 人	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	到津の森公園、山田緑地、平尾台自然の郷における自然観察会等への参加人数を指標としました。 （最終目標と最終年度）						
						順調	順調
（最終目標と最終年度）					やや遅れ 遅れ		

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	適切な事業回数を確保できており、市民への普及が順調に進んでいます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	指定管理の導入により、経済性・効率性の向上を図っています。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
本事業は終了はしませんが、指定管理業務の一環として実施します。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	長野緑地「市民参加による農業体験教室」						掲載ページ		
							110		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		2,674	千円	873,464 <small>(公園緑地事業[単独]の総額。本事業はその一部)</small>	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	公園管理課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	長野緑地ではその計画テーマとして「自然と人を育む、体験交流公園」を目指しています。当事業では平成15年度に完成した「学習用田圃」の効率的な管理運営として、また、計画地の買収済区域等の暫定的利用の一手法として、市民が農作業を通して自然環境について体験学習する「農業体験教室」を行います。それにより公園計画地を有効活用するとともに、里山・里地としての農村景観の維持を図っていきます。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動計画	農業体験教室は自然相手の事業であり、毎年、天候や気象条件が異なる中で、最善を尽くして事業を進めていきます。 地元の団体や幼稚園、小学校と連携して活動を行います。 農業体験を行うことで、自然に親しむ機会を与え、食への関心、家族や友達とのふれあいや、一緒に作業することへの喜びが得られることを期待しています。 事業の実施はNPO法人長野美し村計画実行委員会に委託しています。								
活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】			
	市民参加による農業体験教室の実施  野菜作りの基本学習、土になじむことを目的としたサツマイモの作付け、芋ほりや水田でのもち米の田植え稲刈り等を行い、収穫物の試食会を開催します。 ひまわり、コスモスの種まきを行い、花畑整備を行います。  (最終目標と最終年度)	55回	50回	56回 112.0%	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	(最終目標と最終年度)				順調 やや遅れ 遅れ	順調			

## 【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  天候に左右される事業ですが、今年度も天気に恵まれ、目標を超える活動実績をあげることができたことから順調としました。効果的な事業であったと考えています。
	【経済性】 【効率性】の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  委託している「NPO法人 長野美し村計画実行委員会」の主な構成員は、地元の農業従事者であり、自宅から長野緑地までの距離が近いことや農業用耕作機械等の調達等の面で有利です。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

未整備の既買収地の有効活用を図るとともに、実施回数50回(参加人数年間2,000人)を目標とし、「市民参加による農業体験教室」の発展充実を図ります。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	到津の森公園環境学習プログラム						掲載ページ		
							110		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	建設局
		0	千円	0	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	公園管理課

## 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか 到津の森公園は、市内の教育関係施設（ほたる館、水環境館、板櫃川「水辺の楽校」）と連携し、市内及び市外の小学生を対象に体験活動を通じた3つの環境学習プログラム（①、②）と、小学校の先生を対象にしたプログラムを提供します。学習内容は命や環境、自然などいくつかのテーマの中から選択でき①長期学習プログラム（園での通年の総合学習）、②遠足学習プログラム（遠足で園を利用する小学生のための学習プログラム）などがあります。	活動実績 活動結果は下記のとおりです。
活動計画	到津の森公園と市内3施設が連携し、学習プログラムを実施します。（体験学習の機会の提供）	

活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）	前年度実績	目標	実績（達成率）	→	【活動の状況】
		到津の森公園環境学習プログラムの参加者数  どれだけ多く総合的な学習機会を提供できたかを計るため、「参加者数」という活動指標を選択しました。  （最終目標と最終年度） 現状維持（毎年度 3,000人）	3,392 人	3,000 人	3,289 人 109.6 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	（最終目標と最終年度）					

## 【Check】評価（分析）

分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析 活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	命や環境、自然などのテーマを、本プログラムを活用して総合的に学べる機会として、有効な活動ができています。各学校の希望に合わせてプログラムを提供したり、受け入れ対象を広げたりするなど、事業目的を達成する工夫を毎年加えていることで効果が上がっています。
	【経済性】 【効率性】の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	教育委員会や市内教育関係施設の協力のもと、事業実施の核となる到津の森公園の指定管理者が低いコストで事業を実施し、高い効果を得ています。

## 【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること

教科書及び学習指導要領の内容に一層沿うものとなるよう、到津の森公園におけるプログラムを見直します。  
 なお、本事業は平成25年度までは市の委託事業として実施し、平成26年度以降は指定管理業務の一つとして実施しています。

# 「元気発進！子どもプラン」事業評価票（平成26年度実績評価）

事業名	環境教育推進事業						掲載ページ		
							110		
コスト	事業費	平成26年度執行額		平成27年度予算額		政策分野	子どもや若者の健やかな成長や自立を支える環境づくり	担当局	教育委員会
		14,657	千円	23,600	千円	施策名	青少年の健全育成	担当課	指導第一課

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を（誰を）どのような状態にしたのか	環境未来都市としての北九州市の独自性を活かし、体験的な学習を通して子どもたちの環境に対する認識を深めるとともに、環境の保全やよりよい環境の創造のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力の育成を図っていきます。 また、成果等を広く紹介し、学校のみならず、家庭や地域の人々の環境に対する関心や意識を高め、環境保全への実践的な活動が市民全体に広まることを目指します。				活動実績	平成24年度まで行っていた中学生対象のエコツアーが廃止となったため、各施設の学習プログラムによる環境学習は減少しましたが、学校行事（農村民泊体験やふれあい合宿）による環境学習や総合的な時間に行う学校独自の環境学習は充実しています。 子どもサミット発表校については、教育セミナーの規模に応じた校数で、環境推進指定校の取組を広く発信することができました。	
活動計画	環境首都を目指す本市において、環境保全のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力を育成するための体験学習の充実や、総合的な学習の時間における「環境体験科」の推進を図ります。 また、北九州市独自の環境教育プログラムの調査研究、作成と普及を行います。							
活動指標	指標（数値化できない場合は、活動内容を文章で記載） （上段：指標名 下段：指標の考え方）		前年度実績	目標	実績（達成率）		→	【活動の状況】
	環境学習の実施校数 各施設での子どもの発育段階に応じた体験的な学習プログラムを体験することにより、子どもの環境に関する興味・関心や学習意欲等が高めるようにします。このため、実施校数を指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）		135 校	135 校	135 校	100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子どもサミット発表校数 先進的な取組を行っている小・中学校の児童生徒による、環境保全にかかわる実践発表、意見交換や大人への提言等を行い環境教育を全校・園ならびに広く一般市民に普及させます。このため、発表校数を指標として設定しました。 （最終目標と最終年度）		3 校	2 校	2 校	100.0 %	順調 やや遅れ 遅れ	

【Check】評価（分析）			
分析及び課題の整理	【活動の状況】を踏まえた分析	活動は予定通りだったのか、活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	環境教育の推進をさらにはかるため、小学校4年生の総合的な学習の時間の中で市内の環境教育関連施設を見学したり、体験したりする環境体験活動を取り入れた「環境体験科」を実施し、さらなる環境教育推進を図りました。 「環境体験科」の全小学校の実施、「環境首都！サミット」の一般市民を含む参加者数が多いことなどから、学校のみならず、家庭や地域の人々に環境に対する関心や意識を高めるのに有効でした。 「北九州市環境キャラバン」は、すでに実施している小学校第4学年の「環境体験科」の拡充として、環境未来都市北九州市を担う子ども環境リーダーの育成に有効でした。また、「北九州市ユネスコスクール推進事業」においても、ユネスコスクールがESDの拠点として、学校間の情報発信・情報交換をはじめ、有効でした。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	環境体験科において、「経済性」を考慮し、小規模校について20校、10組をバス乗り合わせの対象として、実施を行ないました。環境局等の他部局の事業を広く学校に紹介するなど、連携を図ることで、経費の削減、効率のアップに努めました。

【Action】 目的実現のために平成27年度以降に実施すること
環境未来都市としての北九州市の独自性を活かし、体験的な学習を通して子どもたちの環境に対する認識を深めるとともに、環境の保全やよりよい環境の創造のために主体的に行動する実践的な態度や資質、能力の育成を図っていきます。また、ESDの視点を環境教育に生かしたり、ユネスコスクール推進事業を推し進めたりしながら、グローバルな視点で環境教育を推進していきます。